

良寛さんと信濃川大河津分水から 道州制をかんがえる

～50年・100年先を見越した先見の明が求められている～

ながおか自治体研究所事務局長 高橋 剛



数右衛門と良寛の旅のはじめに

江戸時代、幕府に信濃川の氾濫をなくするために大河津分水の実現を請願し、200年後に越後平野を日本一の穀倉地帯にした本間屋数右衛門父子と、同時代に生きた良寛さまのこと。「良寛を歩く」で水上勉さんは「歩くということは、考えることだと言う。このあたり前のことが、よくわかった。人は歩く。考えずに歩く、といっても、じつは何かを考えて歩いてる。」と記しています。

平成の大合併で11市町村が広域合併し、中心市街地の再開発の為に、私が生まれて居住する寺泊は置き去りの兆し、合併せずに中越沖地震も乗り切り元気な良寛さまの生まれ出雲崎町。数右衛門や良寛から、水上勉さんや不破哲三さんに導かれながら、この旅のご案内役をしてみたくりました。

大河津分水をと父子で訴え続けた、先覚者・寺泊の本間屋数右衛門

長岡市教育委員会発行の教科書の副読本「わたしたちのまち長岡」に、本間屋数右衛門父子が記載されています。この要点は、「江戸時代、8代将軍徳川吉宗が治めていた享保(1716-1735)のころ、本間屋数右衛門は、代々寺泊の町年寄りをつとめていた本間家につかえていました。そのころの信濃川は、あばれ川で江戸時代の大洪水だけでも86回を数えました。洪水が起きたために、米の収穫がなくなる。家が流される、人が亡くなるなど大きな被害を受けていました。数右衛門は大河津から寺泊に分水路を掘り、信濃川の水を日本海に流すことを考えました。幕府にくりかえし願ひ出しました。

2代目数右衛門がそのねがいを引きつぎ1775年に幕府に願ひ出しました。幕府はその熱意に分水路の調査をさせました。しかし、ばく大な費用がかかることと魚や塩がとれなくなると村が反対、港が浅くなることをおそれる新潟の人たちの反対などが理由で、親子二代80年間におよんだ運動はついに実現しませんでした。その後多くの方が分水路の願ひをくりかえし続けました。1870(明治3)年ようやく第一次工事が始まりました。』

大河津資料館前に建つ信濃川治水紀功碑

大河津資料館前に「信濃川治水紀功碑」(高さ7.2m、幅2.5m、厚さ42cm)が建っています。この信濃川治水紀功碑から本間屋数右衛門にかかわる碑文の一部です。(碑文の読み下し)「この世紀の大工事は、明治42年から大正11年まで、その数80名の尊い人命を失ひ、この人々が礎となって竣工を見たのです。」と記しています。

水上勉「良寛を歩く」には、この数右衛門が、「死後鼠となりても一線の分水路を貫通したい」と遺言を残したことを紹介しています。

江戸封建時代に、娘を三国越えさせて飯炊き女に売らなければならなかった飢餓地獄のなかの越後農民。2代目の本間屋数右衛門が幕府に請願したことで、「公」の課題となり、次世代に引き継がれたのです。私は、大河津分水なくして越後を語れないという思いから、良寛と数右衛門を訪ねる旅は、信濃川大河津資料館を見学し、この碑の前に立つことからはじめることを勧めたいのです。

照明寺(寺泊)の本間数右衛門の墓

照明寺の寺に、数右衛門の墓があります。昔は本間本家にあたる主家筋の本間家の3つの墓の一番下にあったものが、現在は本堂の高台に移されています。案内札もなく、墓を探すのにひと苦労しなければならないのを放置していいのかという思いが募るのです。墓の前にたつと、しばらくはその場を離れがたくなります。



照明寺の集団墓地に移されている数右衛門の墓

同時に、私が関心を持つのは、二代目数右衛門と同じ時代に、信濃川の洪水や、円上寺湯の水抜き工事に関わる詩や歌を残した、良寛の姿などを浮き彫りにしてみたくりました。「寛政甲子夏」は、良寛の洪水にたいする怒りや悲しみの気持ちが過剰とも思えるほどの筆致で表現されています。



国上寺に隣接する公園に建つ良寛の墓

不破哲三さんは「糞笠の人」で、良寛研究の姿勢という項を起し「水上さんの良寛研究には、独特の出発点があります。良寛という、風雅の道にすぐれた禅僧というイメージがすぐ浮かびます。しかし、と反問し、良寛の生きた姿を多面的に追求し、その中で良寛の生涯の真実を解明してゆきます。ここに、水上さんならではの姿勢があったと思います。

大きくなりすぎた長岡市から寺泊の分離・分立も考えて

京都大学の岡田知弘教授は、「地域自治組織と住民自治」(自治体研究社)の論文のなかで、「地域自治組織による対応では限界がある場合には、地域自治組織を母体に、大きくなりすぎた基礎自治体を解体し、新たな小規模自治体の分離、分立と、広域連合制度等を活用したこれらの緩やかな相互連帯を再構築する方向も展望できるであろう。人間という存在が、ある特定の生活領域に根づいて生活している以上、それは必然の方向でもある。地方自治制度は与えられるものでなく、主権者である住民の手によって創り出すものである。」

私は、この論考で、道州制の導入で国のかたちを変え、

住民自治の破壊に立ちむかうために、後期高齢者の仲間入りした私の知り得るうちに実現できなくとも、先覚者たちの生き様から学び、歴史と文化に誇りを持ち、持続可能なまちづくりをめざし、地道な活動をいのちの続く限り続けるために、本間屋数右衛門や良寛から学ぶ視点を、水上勉さんと不破哲三さんから示唆されたように思います。(たかはし つよし)

旅のおさそい

～新緑の季節～
数右衛門と良寛から地域のあり方をかんがえる旅
 「旅をすることは考えること、来てみなければ分からない」という言葉があります。数右衛門と良寛の足跡を辿りながら、地域のあり方や道州制についてかんがえてみませんか。新緑の季節に、越後平野を巡り季節の料理や地酒も楽しみ方のひとつ。

日程：5月15日(日)～16日(月)
 費用：¥33,000
 定員：35名(最低実施人員15名)

上越新幹線 燕三条駅改札口11時集合
 ①燕三条駅→横田切の現地視察→信濃川河川事務所資料館(燕市分水)→分水良寛資料館→国上・五合庵(朝日公園の展望台から越後平野と分水を見る)
 寺泊・寺泊海岸温泉
 ②寺泊周辺見学(照明寺/数右衛門の墓と良寛の墓誌)出雲崎町良寛資料館(合併せずに元気町)→和島、木村家、良寛終焉の地→降泉寺→塩入峠から与板→長岡駅で解散

信濃川大河津資料館の屋上から国上山と分水

BOOK GUIDE

「地元」の力 地域力創造 7つの法則
 [単行本(ソフトカバー)]
 金丸弘美(著)
 エヌティティ出版 ¥1,680

この本は「田舎力」(NHK出版)の続編となるもので、「地域力創造の7つの法則」を説いている。金丸さんのすごさは、人類が生存し続ける上で深刻な食と農の問題を、数字やデータで訴えるのではないところ。

小さな村や地域に深く入り込み、取り組みの現場に光をあて、優れた実例の輝きを紹介している。それも単なる取材レポートではなく、背景にある本質的な法則を明らかに。「トータルなくみづくりが道を拓く」、「地元の特徴をアピールする品揃え」など当事者が意識していないことも引き出し、優れた実践の背景にある法則を分析。

現在の社会的、経済的苦境の下で苦闘している中小企業や団体にも光明を与えるテキストにもなる好著。

琉球探訪 沖縄本島 4日間

- 2月20日～23日 ¥97,000 3月6日～9日 ¥94,000
 3月27日～30日 ¥99,000 4月11日～14日 ¥94,000
 5月9日～12日 ¥93,000
 募集20名(最少催行10名) ②
- ①各地空港→那覇空港→南部観光見学→那覇市内泊
 - ②中部基地見学→辺野古漁港見学→本館内泊
 - ③本部→北部見学→高江ヘリパッド→沖縄美ら海水族館→那覇市内泊
 - ④自由行動、那覇空港→各地空港
 - ◇普天間基地移設問題で揺れる辺野古を激論・訪問。
 - ◇ヘリパッド建設問題で座込みを続ける、東村高江へ激論・訪問
 - ◇南部観光や中部基地を見学し、戦争や安保問題をかんがえます。

南九州 平和の旅 3日間

- 3月7日～9日 ¥93,000 5月16日～18日 ¥92,000
 募集20名(最少催行10名) ②
- ①各地空港→鹿児島空港→知覧見学→うなぎ湖畔泊
 - ②湖南丸の碑→鹿児島航空資料館→特攻慰霊塔→平和台公園→宮崎市内泊
 - ③都井岬周辺見学→青島周辺見学→宮崎空港→各地空港
 - ◇元特攻隊員の方からお話を伺います。
 - ◇知覧、鹿児島の特攻隊資料館を見学。
 - ◇宮崎では、「八紘一宇の塔」を見学し侵略問題を考えます。

日本の朝鮮侵略をかんがえる 唐津(名護屋城)・老岐・対馬を訪ねる 4日間

- 3月17日～20日 ¥138,000
 5月19日～22日 ¥135,000
 募集25名(最少催行15名) ②
- ①各地空港→福岡空港→唐津市内見学(名護屋城博物館など)唐津市内泊
 - ②唐津東港→老岐・印通寺 老岐島内見学(一支国博物館)老岐島内泊
 - ③老岐・郷の浦港→対馬厳原港 老岐島内見学(崔益鉉の碑など)対馬島内泊
 - ④老岐島内見学(韓国展示所・朝鮮国訳官使受難の碑)対馬空港→福岡空港→各地空港
 - ◇「韓国併合」を迎えた今年、豊田秀吉朝鮮侵略の頃からの歴史を振り返る。
 - ◇豊田秀吉朝鮮侵略の反省に立つ名護屋城博物館を見学。
 - ◇老岐では、オープンしたの「一支国博物館」を見学。
 - ◇韓国を目前にした対馬を訪れ、明治政府の侵略に反対した愛国者の碑を見学。



アンコール遺跡とカンボジア 6日間

- 5月15日～20日 ¥179,000
 定員20名(最低実施10名)
 成田→アジア都市→シェムリアップ③→プノンペン①→アジア都市→①成田
 ★クメールが創り上げた神々が住むアンコール遺跡群を2日かけてじっくり見学
 ★今も地雷の除去作業に精力をこめてアキラ地雷博物館訪問

学習会

アンコールの国カンボジア ～過去・現在・未来～
 人々と社会と政治について

講師：鈴木勝比古氏(ジャーナリスト、元ノイ駐在員)
 日時：2月11日(金) 13:30～15:30
 場所：富士国際旅行会議室

